

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学生の履修ニーズに対応した開講科目の見直しを行う。	→履修者数一覧。	B
2. マルチメディアを活用した授業形態を2013年度までに3割に拡大する。	→マルチメディア利用の科目数。	B
3. オムニバス方式の授業形態をさらに工夫する。	→オムニバス形式科目に関するFDワークショップの開催。	B
4. 学生による授業評価制度を活用し、授業内容、運営方法等の改善を進める。	→学習効果測定の指標の開発、実施。	B
5. 研究活動への学生の主体的参加を促すため、言語コミュニケーション文化学会の活動を強化する。	→学会での研究発表数。教員・学生の参加者数。学会の講演会、教員を主体とするシンポジウムの公開。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

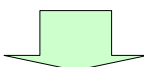
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 学生のニーズに対応して適宜開講科目の見直しを行い、各科目の性格に合わせた授業形態を採用する。綿密な研究計画に基づき、きめ細かく、丁寧な論文指導を行う。 (現状説明) オムニバス方式の科目を各分野に配置しており、単一のテーマに対する複数のアプローチに触れられるよう工夫している。マルチメディアを用いることで教育効果が上がることが期待される科目については、そのような授業形態を積極的に取り入れつつある。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) シラバスには授業の目的や方法の他に毎回の授業内容も詳細に記載している。また、毎学期の授業開始時にはシラバスに書かれた予定に従ってどのように授業を進めていくのかを説明し、受講生がその科目における学習内容を把握できるよう徹底している。
☆ 小項目6.3.3	評価方法・基準をシラバスと初回の授業で明示し、それに基づいて厳格に評価・単位認定するよう徹底している。
☆ 小項目6.3.4	全科目において学期末に学生による授業評価を実施している。授業評価の回答は、教員による学生の評価に影響が出ないように、成績の提出が終わった後で各教員に渡される。また、回答は教務学生委員がチェックを行う。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	研究活動への学生の主体的参加を促すため、言語コミュニケーション文化学会での活動が活発に行われている。大学院学生による研究発表者数が増えており、講演会、シンポジウムも毎年開催されている。
小項目6.3.2	2001年に研究科を開設して以降、シラバスの作成を義務づけ、シラバスに沿った授業が着実に進められている。
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	研究科の開設以降、毎学期授業評価を実施してきており、その結果を授業に生かしている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目6.3.1	外部の学会でも積極的に発表するよう学生に指導する。
小項目6.3.2	英語での授業の増加に伴い、それらの科目についてはシラバスも英語で書くことを奨励する。
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	不開講の科目が2009年度のカリキュラム改正時に若干増加した。
小項目6.3.2	
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	少人数の研究演習においても授業評価を導入しているが、サンプル数が少ないため十分なデータが得にくい。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	学生数や学生のニーズと、科目設置の意義とを勘案して開講科目の見直しを行う。
小項目6.3.2	
☆小項目6.3.3	
小項目6.3.4	研究演習については授業評価の他に、教員間の情報交換により指導方法を共有することにより、各教員の指導力を高めていく。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

なし

【学内委員】

- 小項目ごとの現状説明は適切であるが、2009年度に設置した目標に対する進捗評価に対する現状説明を行うことが望ましいと思われま。
- 自己点検・改善のサイクルが機能していると判断されます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
